

越山若水

2019.5.10

ある著名なデザイナーの作品群

のなかに、理解に苦しむ灰皿があった。金属とおぼしき四角く薄い箱の上面に、丸い穴とくぼみが四つ。おおざっぱにスケッチすればそんな形。格好いいのだが、そう何本も吸い殻が入らない▼実用的ではない。見た目を優先したかと軽視した。すると「健康のためだよ」とデザイナーは笑った。美や便利さを追求するだけが能ではなく、使いにくくするのもデザイン。そんな解説だった。しゃれでなく煙に巻かれた気がした▼2台の車が交差点で衝突し、はずみで歩道へ飛び出た1台に保育園児ら16人がはねられた。2歳の2人が死亡し、保育士を含む14人が重軽傷を負った。大津市で起きた事故は、こうして文字にするのもつらいほど悲惨だ▼こんなに若い命がなぜ失われたのか、傷つけられたのか。右折車の女性が前をよく見ていなかった可能性が高いというが、そもそも車同士が衝突する交差点の現状の問題がありはしないのか▼「環状交差点」というのがある。読んで字のごとくの形状をしていて、車は時計回りに進んで抜け出る。英米では「ラウンドアバウト」として普通になったが日本では珍しく、福井県は美浜町に一つ。この交差点で特筆すべき点がある。信号がないのに、重大事故が減るらしいことだ。万能ではない。費用も要る。が、選択は火を見るより明らかだ。何より命だ。